

別 紙

公開概要書

受付日	令和 6 年 5 月 14 日	回答日	令和 6 年 5 月 22 日	担当課	連携のまちづくり 推進課
意見等の内容	益田市の人口流出が止まらない。 少子高齢化が特に進んでおり、益田市の将来が危うい。若者や学生が益田市に対して希望を持たず、県外に行ってしまう。 山本市長が益田市に来られた理由や益田市に魅力を感じた点など若者や学生に対して発信していけば、若者は地元の魅力に気づきまた、再確認することで地元に残ってくれるのではないかな。				
回答の内容	全国的な傾向と同様、本市においても人口減少が進み、令和 6 年 3 月末時点の人口は 43, 327 人となっており、人口減少の要因としては出生者数以上に死亡者数が上回る自然減に起因する傾向にあります。 しかしながら、社会減の人口流出もあり、本市の若年層においては、高校卒業後の進学や就職に伴い本市を離れている現状があります。 このような人口減少が避けられない社会においても持続可能なまちを構築するため本市では、「ひとが育ち輝くまち益田」を市の将来像に掲げ、教育機関や地域、企業やNPO団体と協働し、仕事だけでなく、家庭や地域活動や趣味、余暇の時間の多様な生き方としてのライフキャリアを自分でデザインできるまちづくりを進めており、「ますだのひと」ホームページで発信をしております。 その他、本市へのUターンを促進するため、益田市版「ツナガル」事業として、大学進学或いは就職などで本市を離れた若者に、LINE 等を通じ本市のイベント情報などを発信することで、引き続き故郷に関心を持って頂けるよう努めているところです。 本市の魅力が伝わるよう、益田市の公式ウェブサイトや「ますだのひと」ホームページ、公式 YouTube 等の SNS を活用し引き続き情報を発信してまいります。				